

血球貪食症候群

- 発熱、血球減少、肝機能障害などから血球貪食症候群が疑われる場合、速やかに血液内科専門医と連携し適切な処置を行ってください。

発現例数(発現割合)

国内製造販売後[医薬品リスク管理計画(RMP)の作成又は改訂を評価した2018年10月23日時点]において、血球貪食症候群が9例(重篤：9例)報告されています。

本剤の処置

- 異常が認められた場合には投与を中止するなど、適切な処置を行ってください。

補足

本事象に関連する以下の項目については付録のP.151をご参照ください。

- ▶ 臨床症状・検査所見
- ▶ ガイドライン等による対処法
 - ・ 血球貪食症候群に対する一般的な対処法
 - ・ 副腎皮質ホルモン剤投与時の日和見感染予防について